

保育の社会化にむけて
～保育の営みをいかに社会に発信するか～
【相模原市立保育園と地域社会との交流】

神奈川県相模原市 市立麻溝台保育園 園長 宮崎明子
市立相原保育園 園長 大矢裕美

○設置区市町村概要

(人口) 721,099人(平成29年3月1日現在)

(保育所数) 公: 25か所(児童保育園1か所含む) 私: 85か所 計 110か所

(認定こども園: 幼保連携型) 公: 1か所 私: 7か所 計 8か所

1.はじめに

相模原市公立保育園では地域に根ざした保育を目指し、様々な交流を行っており、その取り組みには地域の特色が生かされているもの、また、多くの保育園が行っている内容など多種にわたっています。

今回「保育の社会化にむけて」～保育の営みをいかに社会に発信するか～というテーマに基づき、相模原市公立保育園の取り組みの中から社会での保育園のあり方や役割を考えました。

2.相模原市の概要

相模原市は神奈川県北部に位置し、東京都町田市、八王子市、山梨県等に隣接しています。

平成22年4月に政令指定都市へ移行し、平成29年3月現在の人口は約72万人、総面積は約330km²、緑区・中央区・南区と3つの区が設置され、豊かな自然と都市機能を併せ持つ地域特性を有しています。今後、リニア中央新幹線の駅設置や相模米軍補給廠の返還跡地の利用など、さらなる発展が期待されています。

各区の特徴ですが、緑区は、区の東側には工業や商業、業務機能などが集積し、西側には美しい丹沢のやまなみや津久井湖・相模湖など豊かな自然が広がっています。

中央区は、市役所、裁判所をはじめとする市や国・県の行政機関が集積している地域で、はやぶさで有名になった宇宙航空研究開発機構(JAXA)が立地しています。

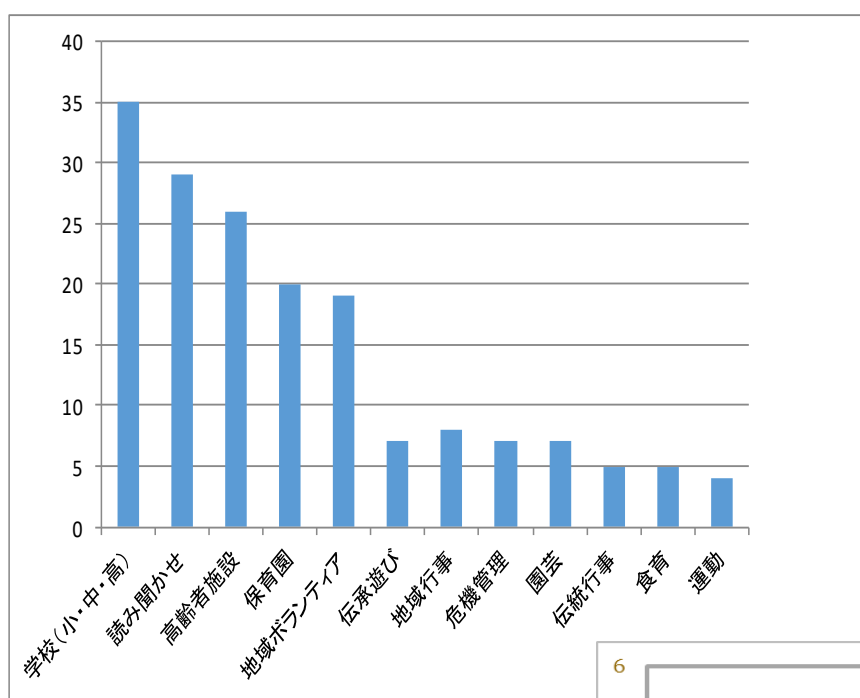
南区は、小田急線沿線の大規模開発が進み、商業・文教施設や高層住宅など多様な機能が集積するとともに、公園や緑地などいこいの場が充実した地域となっています。

3.公立保育園の地域との交流の現状

地域との交流は、子育て世代との交流と、子育て世代以外との交流に分けられ、子育て世代との交流には、育児支援や保育園児との交流があります。相模原の公立保育園・こども園・児童保育園27園中15園に地域担当保育士が配置されており、その担当保育士が、各園独自の事業や他の機関との連携をしながら支援を行っています。

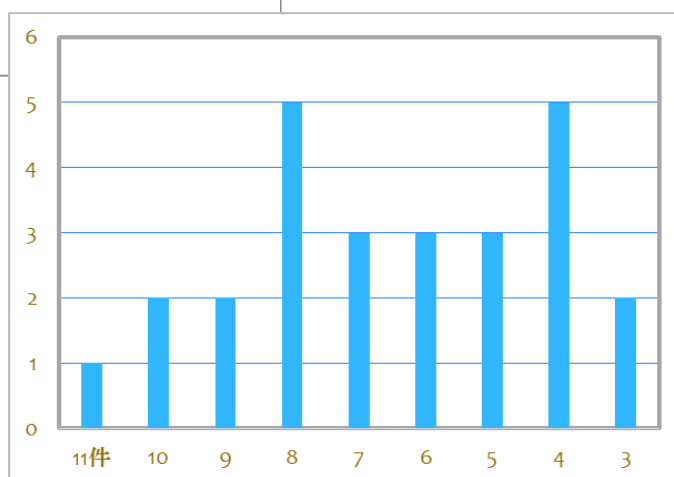
今回、対象が子育て世代ではない地域交流について考えていくことにし、公立保育園27園にアンケート調査を行いました。

各園より出された結果は表に示されているように「学校との交流」や「地域のボランティアによる読み聞かせ」は全園で行っており、高齢者施設や他の保育園との交流などが続いています。また、1園で3～11団体との交流が行われています。



交流内容 全 169 件
(重複あり)

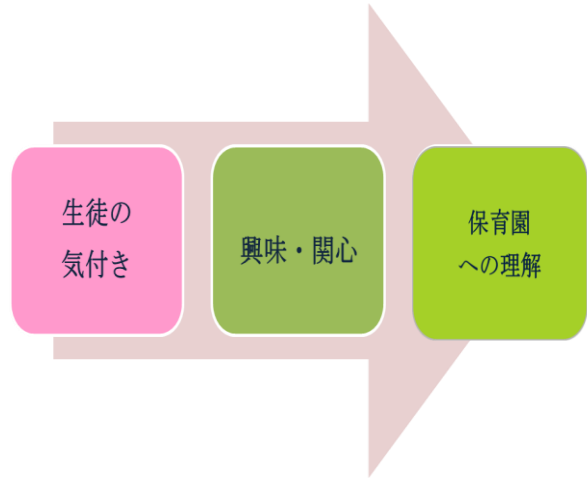
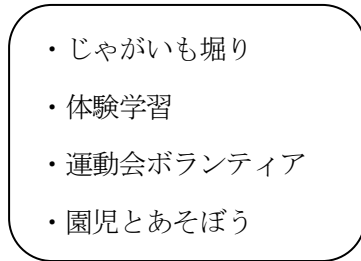
交流件数



4.交流の事例（高等学校・高齢者施設）

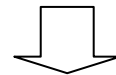
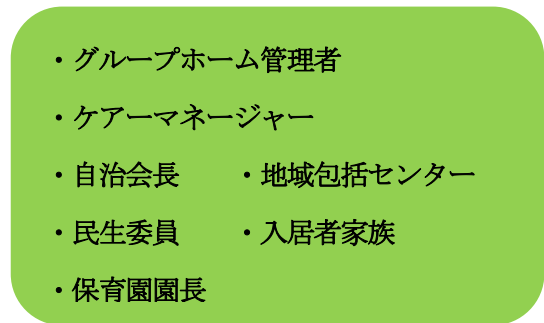
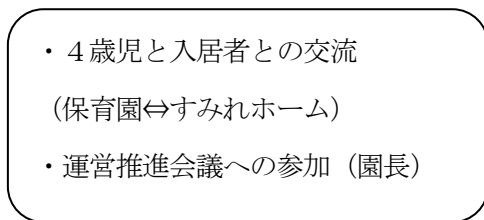
* 1年を通して行っている事例*

・相武台保育園児と相模原青陵高校生との交流



・相模原保育園と

グループホーム「すみれホーム」の交流



情報の共有化と発信

5.考察・課題

今回のアンケート結果の中で、思い描くように交流が進められないと言う悩みや最初に連絡を取るという時点でどのように進めればよいのか？と躊躇してしまうなどの意見が出されました。園内で担当者を決めるなど窓口を作る事で交流のきっかけ作りや、計画的に進めることができます。それにより交流の場が広がり、その経験が次への交流につながっていくのではないのでしょうか？

また、感染症などの流行による交流の延期や中止、近隣に交流ができるような施設がないなどの意見もありましたが、散歩の時に会った方に挨拶をして保育園、保育園児の存在を知って頂いたり、畑で作業している方に声を掛ける事で、収穫の時期に野菜を見せて頂くこともあります。職員の意識の持ち方も様々ではありますが、小さなことを続けていく事で、意識が高まり交流が継続していくと考えられます。

6.まとめ

これまで、それぞれの地域の交流を基に、保育園の理解や様々な世代へのアプローチをしている様子をお伝えしました。

仕事を続けたい、始めたいと考え、保育園に子どもを入所させたい子育て世代が増える一方で、保育園の数が追いつかない現状、現場の保育士不足など保育を必要とする方たちにとって、過ごしにくい状況となっています。また、身近に保育園が建設される事を拒む社会も僅かですが見られます。

地域の様々な年齢の方たちと、保育園、保育園児との交流は、地域社会における保育園の存在やその内容、園児の様子を知っていただく機会になると考え、継続的な取り組みが必要です。

もっと保育園が地域で身近な存在になり、また、保育士になりたいと考える学生が増える事で、今の状況が少しでも改善されることを願っています。

